

会 議 録

議事録名		部長	課長	係長	係	記録	
佐久市保健福祉審議会児童福祉部会							
日 時	令和4年8月22日	場所	佐久市役所 南棟3階会議室		時間	14時00分から 15時40分まで	
出席者	○委員 関本美津子委員、土屋浪子委員、鷹野禮子委員、 林さと美委員、飯森絵梨委員 ○事務局 子育て支援課長、子育て支援係長、子育て支援係員1名、 保育係長、施設整備係長、福祉課地域福祉係長			出席委員	5名	欠席委員	5名
				事務局	6名		
提出資料	資料1-1 第四次佐久市地域福祉計画（骨子案） 資料1-2 第四次佐久市地域福祉計画＜部会ごとの審議対象＞ 資料1-3 第四次佐久市地域福祉計画に関する市民アンケート報告書 資料1-4 第四次佐久市地域福祉計画の策定スケジュール 資料1-5 第四次佐久市地域福祉計画（骨子案）に係る意見等提出様式						
○次第 1 開会 2 自己紹介 3 審議会・部会の概要説明 4 部会長選出（職務代理者指名） 5 会議事項 6 閉会							
○議事録（質疑応答） 委 員 今回の骨子案に書かれた内容は正にそのとおりで、これ以上書き加えることはできないのではないか。だが、行政の労力、人員の不足、地域の高齢化によって担い手がない中で、どう実行していくのか。だから、人づくりという原点のところからやらなければいけない。 今、親たちは0歳から子どもを預けて働く時代。自分の生活が精いっぱい人なことなどやっつけられない。そういう中で、本当に豊かな人生を送るために、人はこれでいいのかというところに立って深く考える、その教育の部分がものすごく大事。 小さい頃からの家庭教育と学校における公的教育、社会教育も含めて、今生まれた子どもたちから、学校を卒業して社会に出るまでの間に、本気で福祉、ボランティア、そして命の大切さを伝えることを教育の中に折り込んでいくことが必要ではないか。							
委 員 乳児は肌を離さず、幼児は手を離さない、少年は目を離してはいけない、青年は心を離してはいけないと言われているが、最近、親が子どもにスマートフォンを持たせ子守を							

していて、小さいうちから肌は触れない、手は握らないというように、その辺がしっかりできていないのではないかと。

保育料が無料になればお母さんたちは楽。自分が勤めていればお金になる。でも、お金で本当に社会に役立つ子どもが育つかどうかは疑問に感じる。だから、もう少し社会全体で子育てについて真剣に考え、具体的な取組についても考えていかなければならない。

今回の骨子案の基本方針はすばらしいと思う。これが実現できたら、本当に日本一の佐久市になると思うが、連携という言葉の一つとっても、口で言うのは易しいが、実際は非常に難しい。

委員 今現在、子育て中の保護者の方と接していて、本当に皆さん一生懸命子育てしていると思う。ただそれが、どんな方向に行くのか先を見通すことが苦手な方もいるし、目の前のことで精いっぱいという方もいるし、子育てを楽しんでいる方もいて、本当に様々だと実感している。

ICT化の充実という話もあったが、少し気持ちに暗いものを抱えていたり、人には知られたくないけれども発信したいという方にとって、スマートフォンはすごくいいアイテムだと思う。だから、スマートフォンに振り回されるのではなく、しっかり使おうということを広めることが大事。

確かに、保育料が無償化になり、色々な面で行政が子育てをバックアップしてくれていることはとてもありがたいが、親たちを楽にする支援ではなく、親たちが子育てに興味や意欲を持てるような支援と、子どもたちにはこういうものがあるよという知識を伝える。そういった子育て支援を、市全体として、教育現場も同じ足並みで事細かく保護者の方に伝え、浸透させることができればいいと思う。

また、先ほども話があったように、せっかく授かった子どもを、命というところで、重点を置いて伝えていくことは本当に大事だと思った。

委員 この骨子案どおりにできれば最高の佐久市になると思う。だが、ボランティアといってもなかなか手がない。私も色々なボランティアに参加しているが、参加者が決まっていて新しく来てくれる人がなく、活動を継続していくのは難しいと感じている。

また、今、ものを与えすぎているのではないかと。私たちが子どもの頃は自分で工夫して作ったりといったことも思い出としてあるが、今はそういうこともなく、あるおもちゃをちょっと遊んですぐ捨ててしまい愛着がなくなってしまう。

皆さん話をされていたとおり、スマートフォンは便利。私も使っていて、ちょっと調べればすぐ答えが出てくる。だけど目で追ってしまって頭に入らない。その時はそうだと思うが、後に残らない。

また、8月17日の新聞に、無園児に対し国が本格的対策という記事が出ていたが、佐久市にも無園児はいるのか。

事務局 無園児というのは、どこにも所属していない子どもということになると思うが、佐久市にもいる。数字で統計的にしか見ていないが、佐久市内にいる0歳から5歳までも子どもの数と各園に属している子どもの数を比べた時に、全員は所属をしていないということは把握している。

委員	<p>出産後の育児期間は子どもを預けられなくなってしまうということも記事にあったが、2番目が生まれて、1番目の子どもを預けられないというのは、こんな大変なことはないんじゃないかと思って記事を切り抜いてきた。</p>
委員	<p>若者は関心がない。朝地域で道の草取りをやる時も、参加者はみんな年寄り。この人たちがなくなった時、また、民生委員や公民館活動を張り切ってやっているお年寄りがなくなった時どうするのか心配になる。そういう時のことを行政はどう考えているのか。</p>
事務局	<p>本当に難しい問題だと思っている。今回骨子案に掲げさせてもらったような、例えば子どもの頃からできるだけ地域活動に触れさせることで、それが当たり前だと思えるようなことや、そういうことを地道にやるということ以外なかなか手立てがない状況。</p> <p>今は、骨子案に記載したような方向で取組を深めていこうと考えているが、本当に難しい課題だと思っている。</p>
事務局	<p>先ほども教育について話があったように、昔の話を押し付ける訳ではないけれども、やはり大人が少し、ある程度導くというか、今の時代だから少し折衷案として示してあげることが必要ではないかと思う。</p> <p>全部が全部だとは思わないが、やはり昔の考え方、三世代家族や昔の知恵というものもその中で学ぶだろうし、それを聞いた若者は、自分たちなりに形を変えてやるかもしれない。</p>
委員	<p>私自身は、三世代家族ではないが、長期休みの時などは、夫の両親が、農作業が忙しいので、泊まり込みで手伝いに行って、一緒に農作業をやったり、子どもも畑で遊ばせたりさせている。そういうことを親子で楽しんでやっていると、子どもはすぐ見えるところで遊べるし、外に行ってまでスマートフォンやゲームをやりたいとは言わない。</p> <p>子どもにそういう何か別の視点を向けさせせるようなことに地域でも取り組んで行くことができれば、ゲームやスマートフォンへ固執することも減ると思うし、おもちゃやものを大事にしないということも少しは減るのではないかと思う。</p>
委員	<p>学校教育の関係の意見も聞きたかった。基本目標1の基本方針2に書いてあることが大事で、ここに力を込めていかなければならない。次回はそういった関係の意見も聞けると良い。</p>
事務局	<p>資料1-5で、本日いただいた意見の他にも意見の提出をお願いしている。児童福祉部会を越えた内容でも構わないので、様々お気づきの点があれば改めて9月2日を目途に提出いただきたい。</p>
	以上